

## 研修医のいる病院

副院長・リハビリテーションセンター長  
中川 種史

## ご紹介患者の症例報告

第15回 循環器内科  
医長 小野 剛

診療協力部門紹介 vol.4  
放射線室

技師長 佐々木 光蔵

## News&amp;News

●第14回せんぼ医療感染講習会  
開催報告

●第6回高輪・品川医療セミナー  
開催報告

●第13回地域医療懇話会・懇親会  
開催のお知らせ

●市民公開講座開催のお知らせ

●呼吸器内科からのお知らせ

vol.31  
2010.11.1

せんぼだより  
うえーぶ  
Wave



せんぼ  
東京高輪病院

地域医療・支援センター  
地域医療連絡室

〒108-8606

東京都港区高輪3丁目10番11号

tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570

URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

## 病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

## 研修医のいる病院

せんぼ東京高輪病院副院長  
リハビリテーションセンター長

なか がわ たね ふみ  
中川 種史



地域の先生方からご紹介いただいた患者さんのご返事が、あまり知らない名前から届くときがあると思います。当院では、何人かの若いドクターが初期研修医として患者さんを治療しつつ医療を学んでおります。まだまだ不慣れなところもありますが、フレッシュな気持ちを、ある程度の経験を経てきた私たちドクターに与えてくれるとともに、私たち自身も研修医に教育を行うことでこれまであやふやにしてきた知識が整理され、自分たちにとってもよい研修となっています。

これまで当院では東京大学の研修協力病院として、研修プログラム的一部分として年間1人から3人の初期研修医の研修を担当してきました。3年間の経過のなかで1名は1年、もう1名は4ヵ月、初期研修が終了して後もさらに当院に残って後期研修を行ってくれました。当院での経験や教育を気に入ってくれたのかと、うれしい気持ちがあると同時にスタッフが1名増加したと同様の効果もあり、猫の手も借りたいときの猫の手よりはるかに業務の助けとなりました。

そのような経験を踏まえて、今年度より管理型病院として自病院独自の初期研修医を採用することにし、昨年度1年をかけて、プログラムの作成、厚生労働省への申請、レジナビという就職説明会での宣伝活動のちに、待望の研修医の採用試験、マッチングという病院の採用希望と学生の就職希望との調整が行われ、いよいよ採用にこぎつけました。最後に2名の定員の中で1名の国家試験落第という試練があり、現在1名の当院独自の初期研修医が、4月より研修を行っております。プログラム上最初の6ヵ月は内科研修を行い、現在は整形外科の研修を行っております。研修態度も

真剣でパラメディカルの評判も良好です。彼の成長していく姿を見ていくたびに当院独自の初期研修医を採用することにした病院の決断は正しかったと思います。

彼以外に本年度を当院で過ごしている初期研修医がいます。東京大学のBプログラムという、初年度を一般病院で過ごし、2年目を東京大学で研修するプログラムで、初年度の選択を当院での研修を選択してくれました。彼は初年度研修医としては人生経験が豊富でかつ、驚くほどのやる気とガッツをもっています。レジデント（住む人）という言葉は彼のためにあるのではと思う熱心さで診療に当たる彼を見るたびに、この1年でどこまで成長するかと考えています。そのほかにも東京大学で1年4ヵ月を過ごし、当院で最後の8ヵ月を選択科目で過ごすプログラムで、2名の研修医が8月より当院に赴任しました。彼らは翌年度の希望がほぼ決まっており、我々の整形外科で主に研修を受ける予定です。

当院は東京大学以外に東邦大学、昭和大学の研修協力病院として指定されており、本年度より東邦大学の地域研修において当院を希望した初期研修医が研修を開始しました。2週から1ヵ月と短い期間ですが、東邦大学出身の先生が主に指導して、大学と異なった一般病院というものを経験していただいております。さらに11月より昭和大学の地域研修を受けることにもなっており、異なった環境からの若者たちが当院で交流し、成長してくれるのが楽しみです。小生は卒業して28年経過し毎日の診療に追われて、新鮮な感動をなかなか持ちづらい時期になっておりますが、若い研修医と触れ合うことが自分の栄養ドリンクになっているような気がいたします。



平素より大変お世話になっております。

このたびはご紹介いただいた患者さんの中で印象に残った1例をご報告させていただきます。

## 【症例】

49歳男性です。2009年1月より労作時息切れ、起床時の胸部不快を主訴にSクリニックを受診され症状が頻回であることから当院へご紹介いただきました。既往歴に特記すべきものはなく、家族歴で祖父、父がともに心筋梗塞によると思われる突然死があるとのことでした。嗜好品では喫煙歴はなく、飲酒も機会飲酒程度のとのことでした。

来院時に施行した採血、ダブルマスター負荷運動負荷心電図、心エコーでは明らかな所見を認めませんでした。症状が強いことから精査目的で入院となりました。入院後冠動脈造影を施行しましたところ、左冠動脈前下降枝が#7で完全閉塞した状態でした(写真1)。その際には心電図変化もほとんどなく、本人の自覚症状もそれほど強くはなかったものの、カテーテル検査に対する緊張のために急激な冠動脈攣縮を来し閉塞したと考えられました。直ちにニトロ冠動脈注入、ニコランジル冠動脈注入を行ったところ再灌流を得ることができ、事なきを得ました(写真2)。重度の冠攣縮性狭心症と診断し、ジルチアゼムを使用のうえ退院と致しました。

退院後外来でジルチアゼムでは症状が完全には取れな

かったためニトロ貼付薬を追加。それでも改善不十分であったためニフェジピンに変更したところかなり改善を得ることができました。しかしまだ発作が頻回であることからニコランジルも追加投与して3剤で現在経過観察中です。症状の再燃が認められなくなった時点で紹介元のSクリニックへ通院していただく予定であります。

今回の症例について

冠攣縮性狭心症は軽症なものが多く、致死性のものが少ないため私たち循環器専門医の中でも比較的軽く見られがちです。しかし、本症例のように冠動脈が完全閉塞してしまうような重症例があることを気づかされた貴重な症例でした。冠攣縮性狭心症の確定診断はカテーテルによるものしか現在はありません。非典型的な胸痛であっても症状が強いようでしたら本症例のように積極的にカテーテル検査による診断を行うことも必要と考えられました。当院では胸痛患者様に対してはいつでも対応できるように循環器スタッフ一同努力しております。時間外であっても虚血性心疾患の疑いがあるようでしたらいつでも対応させていただき所存です。今後とも先生方からのご紹介をお待ちしております。

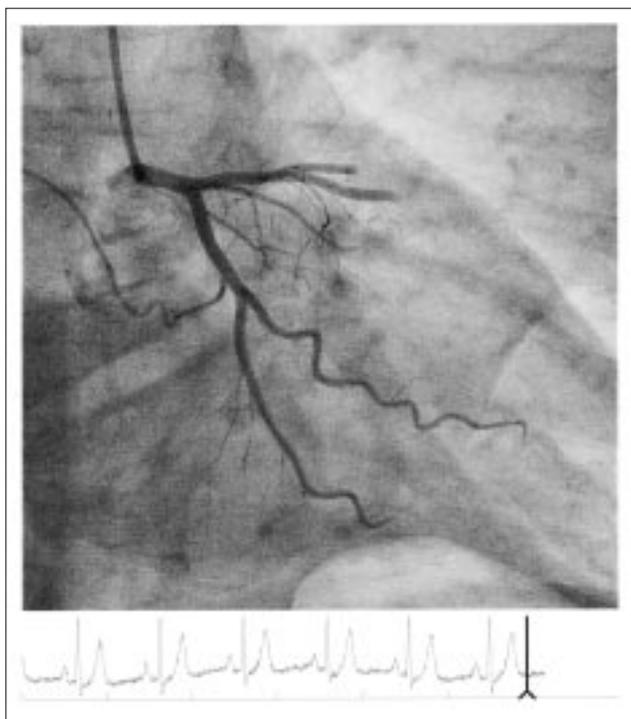


写真1

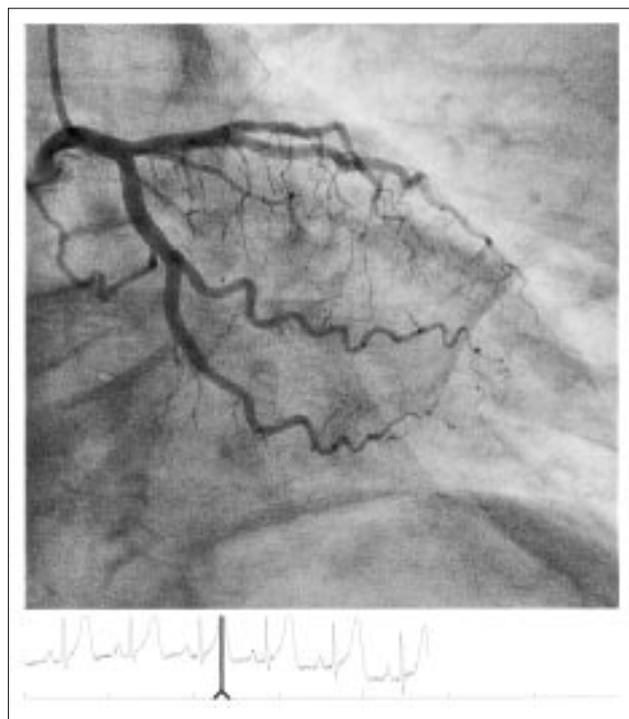


写真2

## 診療協力部門紹介vol.4 放射線室

## 画像PACS化の時代を迎えて



放射線室技師長 佐々木 光蔵



①FPO X線テレビ

レントゲン写真といえばフィルムをシャーカステンにかけて先生が写真を見ながら患者さんと家族に結果説明をしている風景を思い浮かべる先生方も多いのではないのでしょうか。

近年、画像診断は急激に進歩し、画像もアナログからデジタルへのDR化が進み、フィルムレスが促進しモニター

で画像診断をおこなうのが一般化しています。

当院も平成21年1月に健康診断用機器からDR化を開始しました。画像をすべてサーバーで管理することとなり、フィルムの保存スペースやフィルム整理にかかる手間も不用になりつつあります。当然のことながら現像用の暗室も不用になり、昔からの現像定着液も使わず、あの特有の酢酸臭もなくなりました。読影室は読影レポート画面と画像モニターだけなので清潔にすることができ、読影環境も格段に向上しました。

何よりも便利になったことは、見たい画像を瞬時に読影モニターに描出することが可能となり、過去画像等と合わせて同一部位を比較検討しながら精度の高い読影ができるようになった事です。

21年5月には診療用機器のサーバーも設置し、CT、MRI、RI検査は画像サーバーで管理できることとなり、地域の先生方からのCTやMRIのご依頼につきましては、

これまで手書きの報告書でたいへんご不便をおかけしておりましたが、読影レポートにキー画像を添付して結果報告書を作成できるようになりました。院内のオーダーについても、各病棟・外来に設置した端末モニターでも画像と検査結果を参照することができるようになり、診察のスピードと精度も向上しました。

CTやMRIを撮影した患者さんは、検査したフィルムの現像を待つことがなくなり、すぐ外来にもどることで、待ち時間の減少を図ることができました。

ただ、一般撮影に関しては今までどおりフィルム対応になっているため、すべてというわけではありませんが、読影結果や参照画像をモニターで見ることにより、短時間で画像が確認でき、待ち時間短縮に大きく貢献しています。

今後、各機器の更新につきましては時代の流れに乗り遅れないよう計画性をもって院内PACS化を進めていく予定としております。

放射線科として診断に優れた画像を提供してまいりますので、これからも引き続きご依頼を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## &lt;21年から更新された機器&gt;

- 1 健診用X線テレビ 4台、胸部撮影装置 1台  
21年1月更新
- 2 結石破碎装置（ドルニエ Delta II）  
21年7月更新
- 3 循環器系X線診断装置（Allura Xper FD10C）  
21年10月更新
- 4 マンモ撮影装置（SEPIO Stage）  
22年9月更新



②結石破碎装置



③循環器系X線診断装置



④マンモ撮影装置

## 第14回 せんぽ医療感染講習会開催報告

平成22年10月15日（金）、午後7時30分から外来ホールにて開催しました。講師は3回目となる山形大学准教授 森兼啓太先生で今回は「院内感染アウトブレイク事例から学ぶ」という題での講演でした。9月初旬に社会的問題となった事例をとりあげ、院内感染防止をテーマに講演いただきました。また、今年のインフルエンザの流行に関してお話いただきました。外部から34名を含む90名の出席でした。あらためて予防策の大切さを認識するよい会となりました。



せんぽ医療感染講習会

## 第6回 高輪・品川医療セミナー開催報告

平成22年10月19日（火）午後7時30分から外来ホールで開催しました。

今回は高輪台出川循環器・内科クリニックの出川院長を座長にお迎えして、循環器をテーマに行いました。循環器センターの循環器内科山本部長による「意外と怖い異型狭心症について」と心臓血管外科川合部長の「アントニ・ガウディと僧帽弁そしてコロナ・グエル教会」の2題の講演。96名（外部29名）が出席しました。循環器センターは当院の看板のひとつであり、おおいにアピールすることができました。



全体風景



座長 出川先生



山本部長



川合部長

## 第13回 地域医療懇話会・懇親会の開催について

10月初めにご案内のとおり、11月19日（金）午後7時20分よりグランドプリンスホテル新高輪3階「平安の間」「天平の間」にて開催いたします。年に1度、先生方との顔合わせの機会でもあり、当院スタッフ一同お待ち申し上げます。

## 市民公開講座のお知らせ

地域住民の皆様を対象に6～8月の3月連続で第1土曜日の午後から開催いたしました。ジャンルにとらわれない話題で大変好評をいただきました。その2クール目として11～1月に同じ要領で開催することとなりました。第4回目となる11月6日（土）は五反田にあります清泉女子大学の理事長と当院脳神経外科 日山管理部長の講演です。午後2時から外来ホールで行います。お時間があればお出かけください。

## 呼吸器内科からのお知らせ

ご紹介が多い「睡眠時無呼吸症候群（疑い含む）」の診察及び検査の受入についてHPにて専用の紹介状と患者さんへの案内状を新たに作成しましたので、ぜひご利用ください。

## 編集後記



猛暑日の記録も書き換えるほどの夏もようやく過ぎ、朝晩は涼くなりましたが、日中は時折夏日になるなど名残の陽気が続いています。暑すぎた夏の年の冬は寒くなると思いますがどうなるのでしょうか。9月には院内感染が問題になり、世間を騒がせました。感染講習会でもテーマとして取り上げました。当院にとりましても他山の石とせず、今まで以上に気を引き締めて予防策に取り組んでまいりたいと思います。11月19日の懇話会のお返事は出していただけかもしれません。ぜひ多くの先生とお会いできることを楽しみにしております。